

入職して半年以上経過、日本語力の実態は？  
「損・得」する教育とは？ あなたは損していませんか？

ことばの研究社  
TEL 086-486-1742  
FAX 086-486-1744  
kotoba ken@yahoo.co.jp

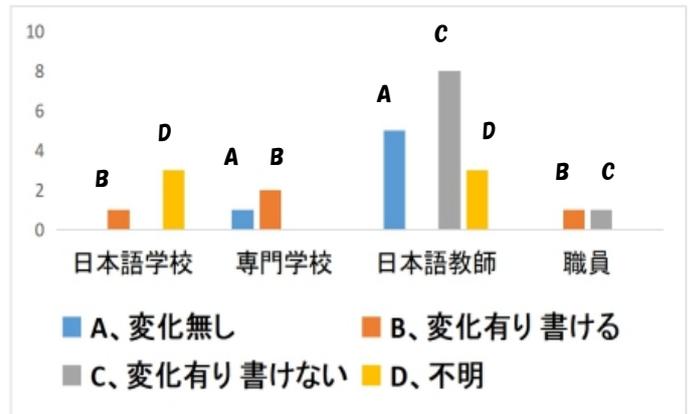
- ※ 前号に引き続き、今号は受入れ機関にとって「外国人人材」は、「損」か「得」かの視点で考えてみることにした。
- ※ 聞き取り対象はEPA候補者・特定技能実習生を中心に、できるだけ現場の「生の声」を聞き出すことを目的とした。その結果、本音の話を多くの施設から聞き出せ、関係者にとって有意義な資料となるように、本号をまとめた。

- ※ 特筆すべきことは、受入れ機関に日本語教育対応に対して、三つの種類があることが判明した。
- ※ 「形式を重んずる型」「過重労働型」「表面教育型」だ。残念ながら「言語教育型」で、「実践能力型」が欠落していることだ。実はこの形こそが受け入れ機関にとって、「得」する教育方法なのだ。

I、【聞き取り内容の実態！】（表1参照）

- 日本語教育の実態は、多くの施設がEPA候補者、特定・技能実習生を日本語・専門学校に通わせたり、自称日本語教師に任せている。中には、施設の職員が行っているところもあった。
- 聞き取り数は28施設で、内容は以下の通りだ。
  - 1、日本語力に変化有り
  - 2、日本語力に変化無し
  - 3、日本語力に変化有るが、文は書けない
  - 4、日本語力に変化有り、文を書ける
  - 5、日本語力の変化が不明
- ※ 聞き取り対象は、現場職員を中心に行い、「生の声」を得られるように心がけた。但し、現場担当者が不在の場合は、管理者から聞き取った。

表1、日本語教育の効果



【学校に通学させている施設の反応】

- 日本語・専門学校に通学させている反応の特徴は、日本語力に「変化が有るのか、無いのかが不明」という声が多いことだ。この原因を聞き取ったところ、学校に「週一回、定期的に通わせているから問題ない」とか、「勉強はさせている」という声が多かったのが特徴だ。これは、**形式を重んずる型**だ。
- 反面、学校に通学させている施設の中には、「日本語力に変化有り、文を書ける」という声もあった。この要因は、専門用語・知識を学校で学ばせて、日本語学習は、施設の職員が週一回、学習を見ているとか、介護日誌を書かせる指導をしているという声があった。これは、現場にとっては**過重労働型**だ。

【自称日本語教師に依頼している施設の反応】

- 聞き取りした大多数が、自称日本語教師が指導をしている施設が多いが、一番の特徴は、「日本語力に変化有るが、文は書けない」という声が多い。「日本語力に変化を感じる」の反応は、「一応は話ができるように感じられる」が、「責任のある仕事を任せることはできない」とか、「利用者や家族対応は難しいレベルだ」という声だ。
- 自称日本語教師では、言語能力を高めることができないのだ。これは、**表面教育型**だ。

【職員が指導している施設の反応】

- 研修責任者が指導をしている施設は、業務をしながら、日本語学習並びに、受験対策指導をするのは、責任が重く大変だという声が多くあった。

II、【「人材それとも、人財」？ もう一度、損・得を考えてみよう！！】

- 施設や病院のホームページの中で、「人材」の代わりに「人財」という言葉を使っている所が多い。その背景には、「人の成長にかける想い」や「職員の教育や育成」に力を入れているという方針が込められている。
- 「材」の語源は、原料・材料・木材という意味だ。そのため、「材」は材料が連想され、物質的に捉え、マイナスイメージがある。しかし、「材」には「素養」という意味もあり、「人材」とは、「既に仕事をする上で役立つ能力を備えている人」を指す。将来の可能性も含め、貢献してくれるという意味も含まれたプラスの言葉でもある。
- 「財」の語源は、宝・値打ちのあるものだ。施設・病院にとって、「有益で大切な人」を指す言葉で、職員を「宝」に例えた考えと言える。従って、その人に投資することで、得られる利益も含む言葉となる。
- 「人財」に比べ「人材」が悪い言葉では決してない。しかし、「人材」は代替え可能な事で、「人財」は「他に代えがたい人」の意味が含まれている。
- さて、日本人職員同様、より速く「外国人人材」を増やすには、短時間で、効果が実感できる教育をすることが「得」する教育であることを考える必要がある。

# 特定・技能実習生、EPA を受け入れている施設・病院の声！！ 「人材」から「人財」にする分かれ道、今後の課題とは？

## 少し話せても、「書く力」は全くない！！

- ミャンマーの特定技能を2名受け入れている。日本語教育は、監理団体に任せている。入職して約半年経ち、話は少しはできるようになってきたが、全く日本語文を書くことはできない。文字を書かせてみることもあるが、字形が日本文字になっていない。
- 業務では意思伝達が大切なので、「話す力」だけ気にして、「書く力」は考えていなかった。確かに、介護日誌等を書く必要があるため、今からは「書く力」を身につけてほしい。(岩手県・S施設)

## 職場で困っている 外国人の対応策



困っている人の頭の中は??  
頭の中を探ってみよう！！

## 「書く力」は合格後に各自で?!

- 長年EPAを受け入れ、日本語教師が来て指導している。会話は少しできるようになって、先生の指導力の効果を感じている。だが、「書く力」は効果はなしだし、現段階では必要ない。
- 病院の方針は看護師国家試験に合格することだ。合格させるための勉強に特化して、専門知識や用語などを看護師が覚えさせている。だから、看護日誌等書かせていない。「書く力」は、合格してからで十分という方針のため、各自で努力し書けるようになれば良い。(長野県・F病院)

## 「話せない・読めない・書けない」の3大原因!!

- 1、日本語の語彙は覚えて頭にあるが、使えない。
- 2、常に母語で考えるために、頭の中がゴミ箱状態。
- 3、言葉の種類が整理整頓されていないために、並べるだけで、何を言っているか分からない。

これを放置すると、どうなる!!

## 職場にも悪影響大!!

- 1、現場の負担が増大して、職員が疲弊するので、職場の雰囲気が悪くなる。
- 2、同国人でかたまり、日本人職員との壁ができる。
- 3、単純な業務しかさせられない状態が続くので、業務意欲が下がる。
- 4、内向き思考になり、精神状態がうつ状態になる。
- 5、帰属意識が無く、定着しない。

## 「対話」ができないので対応は無理!!

- EPAと在日を受け入れている。EPAは専門学校に通わせ、同時に、施設内では元日本語学校の教師をしていた職員が週一回指導している。
- 「会話」は少しずつ高まっていて効果を実感できるようになってきたが、利用者との「対話」は、できないレベルだ。敬語が使えないことと、上手に相手に説明ができないので無理だ。「書く力」は、日本人よりも綺麗な文字で丁寧な文を書く人がいる。
- 日本人でも変な文を書く人がいる。また、在日の人は話はできて文を書けないので、介護日誌は書かせられない。(東京都・K施設)

【対策】教育効果を感じられない時は  
客観的な評価を受けて見直す!!

## 週一回もの日本語教育で効果なし?!

- 以前は、EPAを継続的に受け入れていた。当時は、3年間日本語教師が週一回、指導していたが、全く効果は感じられなかった。介護日誌等も、もちろん書けなかった。EPAはお金と時間をかけても変化が見えなかった。教師の責任なのか、候補者の責任なのか、正直分からない。
- 今は、N3取得者以上の特定技能を採用して、日本語教育はしていない。手間暇を考えると特定技能の方が良い。(山梨県・R施設)

- 1、入職1か月、3か月、半年で言語技能「聞く・話す・読む・書く」に変化を感じられない場合は、弊社の【10分間テスト】を受けて、教育を見直す。
- 2、毎回、授業記録を確認し、現場・日本語教師・学習者の三者が共通の考え方を対して対応する。
- 3、教育効果があれば、その効果を正しく認める。

【帰属意識】を育て、定着を促せる!!



## 施設の声

### 日本語教育はしっかりと！！

- ネパールの特定技能を受け入れた。現地に行き面接をしたが、日本人の介護士と看護師が専門用語の説明をした。反応は分かった表情だった。
- しかし、以前受け入れた者は、例えば「花・鼻」などの同音異義語の変換ができず、言葉の意味が理解できないことが多かった。そのため、職員も対応に大変苦労していた。このような問題もあり、今回はしっかりした日本語教育を受けさせる必要があると考えている。(宮城県・S施設)

### 外国人対応のレクチャーを受けて教育に対する価値観が変わった！！

- EPA を継続的に受け入れてたが、途中で中断した。その間、在日の人を採用して、人材確保をした。在日の方は、話しは通じるし、業務にも慣れることが早く助かっていた。だが、最近人手不足が急速に高まり、すぐにでも受入れないと、施設が回らなくなってしまうような状況だ。
- ことばの研究社からの「月報」は毎月読んでいた。特に、6月号「監理団体」の内容は興味深かった。そんな時に、ことばの研究社から久しぶりの電話があり、タイミングよくレクチャーの誘いがあり、すぐに申し込んだ。
- 監理団体からの営業は沢山あるが、どこが良いのか選び方も分からず、本当に困っていたし、決めかねていた。話を聞いて、「監理団体の実態や、日本語教育の実態」、さらには、受け入れた後の対応とか、教育等を1時間、楽しく、そして、分かりやすく聞くことができたので、助かった。
- 日本語力を「日本語能力試験」を重視して判断しがちになるが、その問題点や日本語教育の質、日本語学習の仕方等、自分が今まで思っていた価値観が大きく変化した。自分自身で大変驚いた。1時間の話の内容がよく理解できたので、法人で情報を共有して、是非、受入れに役立てたいと思っている。(兵庫県・K施設)

### 【外国人対応レクチャー(1時間)のメリット】

1. 無料でできる
2. 好きな時間にできる
3. 多人数でもできる
4. 双方向で相談ができる
5. 学習指導の参考になる
6. 業務指示に役立てられる



【問合せ先】メール:kotoba\_ken@yahoo.co.jp

TEL: 086-486-1742

### ★★ レクチャーを受けて「得」した施設 ★★

- ※ 外国人対応に問題が多い施設からレクチャー希望者が増加しています。その理由は、1時間のレクチャーで外国人対応の考え方が大きく変化し、職場の雰囲気にも変化を起すからです。
- ※ 外部からの指摘は、職場に変化を起します。その結果、人的・財政的に「得」をもたらします。問題を抱えている施設は是非、ご利用下さい。

### 監理団体には日本語教育を任せない！！

- EPA は3名のうち1名合格して、職員として定着して、長く働いている。今は特定技能も受入れているが、監理団体が月1回訪問したり、色々必要な事があればアドバイスをしてもらえる。一人につき、月に3万円以上払っているのだから、きちんと契約通り対応してほしい。
- 最近、他の監理団体から電話で営業が来るが、中には片言の日本語でしか話せない人もいて、そのような団体には、任せたくないと思う。片言の日本語で話されても内容がよく分からない。色々な団体から案内が来るので、一体、どんな団体が本当に良いのかが、正直な所分からない。
- 当施設は、日本語教育を監理団体に依頼しないので、各自がボランティア教室に通ったり、自分自身で選択して、日本語を学んでいる状態だ。人それぞれ目標が異なり、例えば、N3やN2を取得した人もいれば、介護試験を目指したいという人もいて、自分たちなりに頑張っている。

(福井県・S施設)

### レクチャーを現場の指導に役立てたい！！

- EPA だけ受け入れて、日本語教師が週一回指導している。候補者の性格もあるのか、以前受入れた候補者と比較しても、なかなか日本語力が高まらず、業務での意思疎通が取れない。
- 「はい、分かりました」「大丈夫です」と答えても指示した事とは別の行動を取ることが多く、返答を鵜呑みにしていたが、信じられなくなった。今はまだ外国人受け入れ数も少ないが、今後も継続的に受入れをするので混乱する前に、ことばの研究社のレクチャーを聞いて、現場指導の参考にしたいと思い、参加した。
- 外国人に対する「接し方から、指示の出し方」など聞いたことがない話を聞いて新鮮だった。外国人には分からない表現があること等を知り、大変参考になった。確かに、日本人同士では分かるけど、外国人には理解できない表現が、たくさんある。あっという間に1時間が過ぎてしまった。最後に聞いた、「日本語教師・日本語教育の質」についても納得いく内容だったので、感謝している。(宮城県・S施設)